

平成 27 年度「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」(鈴鹿市) の概要

平成 28 年 1 月 30 日(土)に、鈴鹿市の伊達忠兵衛家で、「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、会場の伊達忠兵衛家の建物の保全を行うとともに、ここを拠点に、趣のある講座やイベントなどを開催している『白子の歴史文化を活かす会』とその関係者の皆さん」11名に、伊達忠兵衛氏のことやこの活動に携わって楽しかったこと、課題などについてお伺いしました。



【参加者からの発言】

代表から、団体の活動について紹介いただいた後、メンバーの皆さんから、自己紹介をしていただきました。

(活動紹介・自己紹介)

- 私たちの郷土である江島、白子、寺家は、その地縁、歴史、文化について誇るべきを誇らずというところがあり、こんな事でいいのかなという思いがあった。
- 伊達忠兵衛家の持ち主の方にも快諾いただき、また皆さんにもご尽力いただいて、平成 26 年 1 月に第 1 回目の総会を開くことができた。これまで結 LIVE (和太鼓等の楽器と、鈴鹿のお菓子、お茶が結びついたライブ) や、吊るし雛飾り、古民家落語などのイベントを行い、また今年度は三重県の補助金を活用し伊達忠兵衛家の歴史、文化講座なども始めた。

- 仕事柄、古い建物に興味があった。自分の技術的なもので地域に貢献できないかと思い、参加している。
- 地域に貢献したいという想いでいたところ、伊達家の状況を耳にして、絶対に壊してはいけないという想いが湧いた。25名以上の方に賛同いただき、あまり先が見えている状況ではなかったが、まずこの会を始めた。
- 白子には、昔からの寺社仏閣が多くあり、それを次世代に繋いでいきたい。
- ここにしかない伊勢型紙を1つの文化と捉えて大事にしようと、フェスタを実施したりしている。
- 行事の時にお花を活けて雰囲気盛り上げるなど、楽しく活動している。
- 歴史と古民家が好き。お掃除しながら、昔の人の声が聞こえそう。
- 郷土史が好きで50年以上勉強している。縁があって、仕掛人の端くれを務めさせてもらった。
- 和菓子屋を営んでいるが、明治の頃から伊達さんにはお世話になっており、いつか恩返ししたいと思っていた。一昨年に親しくしている方からお話をいただき、収益の一部をこの建物に寄付するというイベントをここでさせてもらった。今後もそういうものを仕掛けていきたい。

Q この建物の歴史的意義、保存活用に関する内容について教えてください。

- 子供の頃から絵が好きだった。白子の町を一見できるよう街の絵図も描いてここに貼っている。イベントの目的にあった舞台作りをして、お客さんに喜んでいただくことが生き甲斐。
- 伊達忠兵衛家に残る古文書をもらおうと平成25年1月に建物に入った。建築関係の方にも見てもらったら、少なくとも150年から180年ぐらい経っており、非常に傷んではいるが壊すのは惜しいとなった。
- 古文書を整理すると、商売の台帳、小笠原家との関係の書状など色々なものがあり、どんどん新しい事実が分かってきた。小笠原家最後の親子は、父親が浦賀奉行、子供が京都の見廻組の頭という事が分かった。建物は、二階の船底天井や、古文書を何枚も張って作った大きな和紙の壁などがあることも分かってきた。

Q 伊達忠兵衛さんがどんな人で、どんな仕事をしていて、できれば伊勢神宮や高田本山との関係なども簡単に教えていただけますか。

- 元禄3年(1690年)の文書があり、伊達忠兵衛さんは、それ以前から白子で、搾め粕、肥料、油、お米などの商売をされていたようだ。今でいう総合商社、船を持ちながら商売をされていた。この建物は、大体江戸後期に建てられたもので、ここからもう少し白子寄りにあったものを移築したようだ。
- 伊勢神宮へも沢山寄進したり、津市の栗真町屋町に大きな常夜燈を建てたりしている。また、高田専修寺への寄贈等の証拠、明治政府ができた早々に県へ奉納した書類なども出てきている。非常に珍しいものに、文政13年(1830年)のおかげ参りの柄杓、御師の大麻(箱大麻)もあった。
- 伊達忠兵衛さんは、町の方々から寄付金等を募って白子に柿本人麻呂の祠を建て

たと聞いている。また、市議員も勤められていた。

- Q この活動に携わって楽しかったこと、嬉しかったこと、こんな達成感・気付きがあったとか、皆さんが大事にしている、歴史、文化についてもお聞かせください。
- この建物の持ち主の方と縁があり、この家や色々な文書を見せていただいて、取り壊しの相談も受けた。短期間でこのグループを作り、みなさん精力的に動いてもらったことが一番嬉しい。住民パワー、皆さんの力がとにかく一番だと思う。
 - 江島神社に絵馬を見に行ったとき、クジラのヒゲがあり、絵馬よりもっと興味を引かれたが、それを伊達家の方が捕ったと知って何かの縁を感じた。歴史を発見して、楽しく、ビックリした。
 - 明治20年（1887年）に白子の近くに迷いクジラが来て、伊達忠兵衛さんが先頭になってそれを捕った。江島神社に耳石とヒゲ、捕った時の内訳を書いたものが奉納されている。捕った後、村民の方達と美味しく頂いたと書かれている。
 - 一部のメンバーで、家康の伊賀越えを一冊の本にまとめたが、異論もあるので、もっと歴史の探索をしていきたいと思う。
 - いろいろなイベントを、縁の下の力持ちとして支えて活動することを本当に楽しんでいる。ここを広めていくことを嬉しく思っている。
 - 家康のロマン、歴史のロマンはすごく胸躍るものがある。堺から岡崎城まで見て回ったが、昔の人の息遣い、想いなど、私たちには無い深いものを感じた。白子の歴史、先人の知恵、この経済を担った伊達家に対して、自分たちももっと頑張らなければならないと思う。ここを媒体として、色々な出会いがあり、それが一番楽しい。
 - 伊勢型紙の技は、私たちの誇り、地域の誇り。後継者問題に悩んでいるが、若い女性も入ってきており、それを支えられたらと思う。
 - 寺家の子安観音を中心に、山口誓子の句碑が6つ程ある。その俳句や、山口誓子についてももう少し勉強したい。良いメンバーに支えられており、多くの人々と付き合うことで多くのことを学べるし、その中で人間ができてくるのでは。
 - 伊勢型紙は、ジャポニズムとして、ヨーロッパですごくデザインから注目されて、その精神など色々問い合わせも入っているので、それに応えられる体制を作っていきたい。世界にここしかないということも、皆さんに知っていただきたい。
 - 龍源寺の青竹で作った笛を平敦盛が吹いたという言い伝えがあるなど、この地域には平家と関係する遺跡が結構ある。また、勝速日神社には、立派な屋台や、廻船問屋の方が寄付された垂れ幕、朝鮮通信使の垂れ幕もある。世界中の方々に、それらを見ていただけるようにしたいという夢も持っている。
 - 豪商の家など、とても立派な建物の維持管理をオーナーができない時代になってきて、全国的にも空家が問題になっている。町に古い建物が無いというのは、人に思い出が無いのと一緒だと思う。次世代へ引き継いでいく取組を年の差関係なく集まり、情報発信していく事がとてもやりがいに繋がっている。
 - 和菓子は地元の文化を一番紹介できるアイテムと思っている。白子には、型紙とか大黒屋光太夫とか色々あるが、もう一ひねり二ひねりすればもっと良くなるものがいっぱいあるのでは。

Q 何か課題とかがあればお聞かせください。

○ここの前の通りは、伊勢街道、参宮道でいろいろな史跡もあり訪ねる人も多いが、場所を聞かれても若い人はなかなか歴史を知らないし、わかるお年寄りの方は外に出ていない。行き先標示があれば非常がいいと思う。おもてなしが1つの課題。

【知事の発言】

○私も歴史とか非常に好きなので、皆さんの活動等のお話をもっとお聞きしたかった。

○歴史は正しい史実が当然ベースにあるが、私達市民は一定の史実に基づきながら、それをどう解釈して、どう教訓として受けるかは、私達市民なりの視点、感性で、考えて、捉えて、伝えていくことの方がいいんじゃないか、そういうものがきくと共感を呼ぶんじゃないかなと思うし、それが面白さでもあると思う。

○私も坂本竜馬が好きで、脱藩した道を歩いたりしたが、その時に、どういう事を考えていたんだろうとか勝手に想像したりしながら行くのが楽しい部分があると思うので、そういう自分の感性における楽しみ方も含めて、皆さんが白子の歴史や文化を大いに楽しんでいただく事が、最も世の中に伝わる方法なのではないかと思う。我々もしっかり皆さんの活動を応援していきたいと思いますから、皆さんも頑張ってください。

